

誰もが住める寮にするための宣言

提出：23 II 期委員会

日就寮は学生による自治で運営されています。寮に住んでいると、まるでここが私的空間であるかのように考えがちですが、ひとり暮らしとは異なり、みなで共有する公的な空間でもあります。寮生は寮を運営するために議論をする相手でもあり、しかし一方ではたまたま一緒に住むことになっただけの相手でもあります。そしてなにより、日就寮は高等教育における経済要件によるハードルを撤廃し、学問の自由を保障するための福利厚生施設でもあります。ですから、寮を必要とするすべての学生が住み続けられるような空間を目指す必要があります。そのためにはハラスメントなど、相手を不快にさせる行為を自分たちがしないように意識的になる必要があります。

日就寮はこれまでも「アルハラ禁止」「敬語非推奨」などのスローガンを掲げてきており、これは 80 年代以降の伝統です。現在の日就寮は寮生数も回復しつつあり、あらためて包括的な指針を示す必要があると判断し、このような宣言を作成することを提案しました。しかし、この 1 枚の紙ですべてのハラスメント行為に対処できるわけではありません。なにより必要なのは、この宣言をきっかけとしてそれぞれの寮生が自分の行為を見つめなおすこと、そして日就寮を誰かを排除することのない空間にしていくように務めることです。

加害者にならないための行動指針

【上下関係はいらない】

寮という空間を秩序づけるために上下関係はよく使われます。しかしそれは一部の人に過重な我慢を強いることになり、寮生同士が対等であるという前提なしにハラスメントはなくせませんし、寮の意思決定のありかたには馴染みません。また、寮自治にはすべての寮生が臆することなく意見表明できることが不可欠です。

【当たり前を押し付けない】

「大学生なら恋人がいて当たり前」「異性に興味があって当たり前」「早くから就活するのは当たり前」こうした「当たり前」の押しつけは相手を縛ったり、普通に馴染めない人には居づらい場所をつくってしまいます。

【属性で判断しない】

たとえば「男子」しか住んでいない日就寮でも、ストレートもいればバイセクシャル、ゲイ、その他さまざまな人がいておかしくありません。また、まさに自分のセクシュアリティについて悩んでいる最中の人もいるでしょうし、年齢や国籍などが異なる相手もいるでしょう。相手の外見の属性から判断し決めつけるような行為は、精神的負担をもたらすことにつながります。

【不在の属性に対して】

日就寮はすべての学生に福利厚生を提供することを理念に掲げています。したがって、その時寮にいない属性に対しても、蔑視的・差別的言動をするべきではありません。また、いわゆる「男子校ノリ」に代表されるような、異性への欲望を媒介とした紐帯であるホモソーシャルな空間にならないように注意が必要です。そこに差別意識がなくても、一部の属性を締め出すような空間が容易に形成されてしまいます。

【非日常空間での振る舞い】

寮生同士の仲を深めるためのコムパや行事が日就寮にはたくさんあります。しかし、こうした非日常の空間では、高揚感から加害行動をしてしまいやすくなるものです。お酒が入っていればなおさらです。行事の際はいっそう注意するとともに、寮ではコールや一気、無理に飲ませるなどのアルハラに該当する行為は厳しく禁じます。そしてこれは日就寮の行事等に参加する寮外生に対しても同様です。

【迷惑な行為について】

他人の迷惑となる行動は慎まれるべきである一方、自分の感情や行動をコントロールすることが不得意な人もいます。加害と迷惑は峻別し、少しは多めにみることで、そして本人との対話を重ね、信頼関係を構築していくことが求められます。

【不快な思いをしたら】

寮内で起こった問題については当事者間での対話による解決が原則となります。自分が何を不快に思ったか・何に傷ついたかをはっきり伝えることは重要です。これはもちろん、当事者だけで何とかしろと言うことではなく、第三者に仲裁してもらうことも重要です。些細なことでもほかの人に相談できるような空間を目指していくべきです。

【加害行為を指摘されたら】

もしもあなたが加害を指摘されたとしても、あなたにはその自覚がないことが多いと思います。「そういうつもりではなかった」と言い訳をするのではなく、まず相手の言い分を受け止めて対話をするべきです。